

市政ニュース

「治水祈念の碑」除幕式 慰霊と治水整備への願いを込めて

未曾有の大災害を与えた台風23号から2周年にあたる10月20日早朝、日高町浅倉の円山川赤崎橋左岸で「治水祈念の碑」の除幕式が行われました。

この祈念碑は、同地で亡くなった2人の慰霊と、地域住民の治水への願いを明らかにし、整備完了までの道のりを

後世に残すため、周辺6地区で構成する日高町地区円山川上流直轄河川改修促進期成同盟会が地域住民や企業に呼びかけ寄付金を募って建立したものです。高さ2・8メートルの石碑の裏面には、亡くなられた2人の氏名とともに治水整備への願いと誓いを込めた説明が刻まれています。



▲「治水祈念の碑」に献花する遺族。近くには台風23号時の浸水水位を示す標柱が立ち、3.2メートルを表示している

さんを亡くした周藤和正さんが「君に会いに来る場所ができました。この碑の建立にお力添えをいただいた多くの方に感謝します。二度とあのようないことが起きないように治水対策が進んでいくことを望みます」とあいさつを述べると、遺族や参加者は涙を浮かべ、誓いを新たにしていました。

市総合計画審議会が基本構想を答申

将来像は「コウノトリ悠然と舞うふるさと」

10月31日、豊岡市総合計画審議会（会長＝小浦久子・大阪大学大学院助教授）が、今後10年間のまちづくりの指針となる「豊岡市基本構想」について市長に答申しました。

構想では、まちの将来像を「コウノトリ悠然と舞うふるさと」とし、市民・団体・企業・行政をはじめ、まちに関わる人々を「私たち」とし、共にまちづくりに取り組みことを提案しています。

また、さまざまな分野の取り組みを有機的に連携させ、さらに拡大させながら協働してまちづくりを進めることなどを特徴としています。

市では、11月に開催した住民説明会での意見などを取り入れ、本答申をもとに市としての成案を作成し、12月の定例市議会に提案します。また、基本構想をより具体化した「基本計画」「実施計画」も今年度中に策定し、来年4月か

市立図書館竹野分館がオープン 竹野総合支所にぎわいの拠点を整備

10月27日、市立図書館竹野分館が竹野総合支所3階にオープンしました。

支所の利活用と地域のにぎわいの拠点づくりとして旧議会議事部分部分を改修して整備したもので、延べ面積約360平方メートルのフロアに閲覧席をはじめ、学習室、絵本の読み聞かせなど多目的に利用できる「おはなしの部屋」を配置しています。

蔵書数は約1万2千冊で、パソコンやインターネットで蔵書の検索や予約もできます。また、図書施設ネットワークシステムにより、市内の図書館（本館、分館）の資料も借りることができます。

開館時間は午前10時から午後6時まで、毎週火曜日は休館です。竹野地域の皆さん、ぜひ、利用ください。



▲市長に答申書を提出する小浦会長（中央）と中瀬副会長（右）



▶一般図書をはじめ絵本など子ども向けの図書も充実している竹野分館

市議会役員人事決まる 議長に古谷さん、 副議長に森本さん

11月14日、市議会臨時会が開催され、議会役員が改選されました。

議長に古谷修一さん、副議長に森本陸夫さん、議員選出の監査委員に川口匡さんがそれぞれ選ばれました。

なお、各委員会の委員長、副委員長は次のとおりです。
(敬称略)



監査委員
川口 匡



副議長
森本 陸夫



議長
古谷 修一



○は委員長、○は副委員長

■常任委員会

【企画総務委員会】

○野口 逸敏、○芝地 邦彦

【市民福祉委員会】

○奥村 忠俊、○稲垣のり子

【文教委員会】

○上坂 正明、○広川 善徳

【建設経済委員会】

○谷口 勝己、○椿野 仁司

■議会運営委員会

○綿貫 祥一、○木谷 敏勝

■特別委員会

【議会広報特別委員会】

○森井 幸子、○門間 雄司

【災害復旧・復興 調査特別委員会】

○芝地 邦彦、○升田 勝義

【交通網問題調査特別委員会】

○稲垣のり子、○森田 健治

【基本構想審査特別委員会】

○吉岡 正章、○福田 嗣久

忠臣蔵サミット交流会議

全国から忠臣蔵ゆかりのまちが集い交流を深める

10月21日、忠臣蔵にゆかりのある自治体が交流を深める「第18回忠臣蔵サミット」を出石ニューグランドホテルで開催しました。

豊岡では2回目となる本サミットには、義士親善友好都市に加盟する赤穂市や愛知県吉良町など12市区町の首長や関係者などが参加。当日は、出石の中野勘太郎一座による

芝居「大石りくー女忠臣蔵」や絵本作家・永田 萌さんの講演を行うとともに、「男女共同参画によるまちづくり」をテーマにした交流会議などを通して情報交換を図りました。

なお、この義士親善友好都市とは、災害時に食料や飲料水、資機材などの提供、職員の派遣などを相互に行う災害応援協定を締結しています。



▲大石りくにちなんで「女性」をテーマに開催された忠臣蔵サミット

「豊岡靴」の商標登録認定

「豊岡靴」が地域ブランドとして大きく前進

10月27日、地域名と商品名を組み合わせた地域ブランドの商標登録を可能にした「地域団体商標制度」の第一弾の発表が特許庁からあり、市内の靴業者65社で組織される県靴工業組合(高島茂広理事長)が出願していた「豊岡靴」が県内トップをきって認定されました。

同組合は、「豊岡靴」のより一層のブランドイメージの浸透を目指し、本制度のスタートに先駆けて、昨年、地域ブランド委員会を設立。ブランドの品質基準を守ることなどを誓約するマニフェスト(公約)制度の導入や製品の審査会などを実施し、品質向上に努めてきました。この商標登録をもとに、さらなる「豊岡靴」の飛躍が期待されています。

今回選ばれたのは4月に申請のあった374件のうち52件で、そのほかに「長崎カステラ」「有田みかん」なども

認定された。



▶地域ブランドに認定された「豊岡靴」。市内では、じばさん馬で販売されている